

## 令和5年度（追浜高等学校・定時制）不祥事ゼロプログラムの検証等

### ○ 項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
① 法令遵守意識の向上	勤務時間の内外を問わず、常に教育公務員としての自覚と使命感を持ち、法令をはじめ社会規範ルールを守り、全体の奉仕者として信用失墜行為や教職員全体の不名誉となる行為は決して行わない。	A（良好） コンプライアンスマニュアルを活用した研修会を実施し、他人事として受け止めるのではなく、自らを厳しく律するとともに、日ごろから教職員相互で注意し合うことができた。
② 児童・生徒に対する わいせつ・セクハラ行為の防止	生徒との不適切な関係、立場を利用した不適切な行為（わいせつ行為）、生徒等を傷つけるような性的言動（セクシャル・ハラスメント）等を絶対に行わない。また、私的な生徒とのソーシャルネットワーク（SNS）、LINE、メールは禁止であることを再認識する。	A（良好） ① 生徒指導、部活動等については、必ず複数の教職員で対応した。  ② 管理職は、授業や部活動の様子、教科準備室等の利用状況を日常的に巡回した。  ③ 不祥事防止研修会を通して、生徒の連絡先の取得は申請が必要なこと、教職員と生徒とのSNSの利用が不適切である事を研修会で確認した。
③ 体罰、不適切な指導の防止	体罰は、学校教育法に違反する行為であるのみならず、生徒の心身に深刻な悪影響を与え、力による解決を助長し、いじめや暴力などの土壌を生む恐れのある行為であり、いかなる場合でも決して許さないという組織的な指導の徹底を図るとともに、不適切な指導、行き過ぎた指導、暴言等を絶対に行わない。	A（良好） 不祥事防止研修会を通じて、体罰、不適切な指導の防止に向けて注意喚起を行い、適切な指導及び支援が行えるよう意識を高めさせた。
④ 入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取り扱いに係る事故防止	入学者選抜業務、成績処理の誤りや調査書等の進路関係書類の誤発行を根絶する。	A（良好） 業務内容や点検体制について入学者選抜業務マニュアルの再確認を実施し、不祥事防止に向けた取り組みを継続した。入学者選抜の持つ意味、その重要性を全職員が理解し、あらゆる場面で事故を防ぐ体制づくりを徹底した。
⑤ 個人情報等管理・情報セキュリティ対策	生徒の個人情報をルールに従って適切に収集・管理し、紛失、情報漏洩の防止に取り組むとともに、日ごろの行動を確認し、ルールを厳守する。	A（良好） ① コンピュータ利用・情報セキュリティ・文書管理に関するルールを理解させた。特に、対策重要度Ⅰに該当する個人情報を記載した文書は鍵のかかるロッカー等に保管することを徹底した。  ② 不要となった書類をシュレッダー等により廃棄する際は、生徒のプリント等が誤って混入していないか確認しながら作業を行った。  ③ 定期テスト開始より終了1週間後まで、シュレッダーの使用を禁止し、生徒の解答用紙の誤廃棄の徹底を図った。
⑥ 交通事故防止、酒酔い、酒気帯び運転防止及び交通法規の遵守	交通法規の遵守に努めるとともに、安全運転を行い、交通違反や交通事故を防止する。飲酒運転は絶対に行わない。	A（良好） 不祥事防止研修会を通じて、交通事故発生の未然防止及び酒酔い、酒気帯び運転の根絶に向けて意識を高めた。

⑦ 業務執行体制の確保等(情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)	情報共有、相互チェックの体制づくり、業務協力によって、ミスを防止し、負担軽減を図る。	A (良好) 教職員の情報共有と業務協力によって、一人ひとりの負担を軽減し、チームで質の高い業務遂行に取り組めた。
⑧ 財務事務等の適正執行	適切で公正な予算編成と執行を行う。	A (良好) 私費会計における研修会を実施し、執行事務手続きについて正しく理解を深め、適切な執行を行った。
⑨ 授業中、学校行事、部活動中における事故防止	授業中、学校行事、部活動中における事故を起こさないよう、問題点の共有、共通理解の構築、校内連絡体制の構築を図る。	A (良好) 具体例を示した研修会やAED研修会等を通して、適切な方法を正しく理解し、全教職員の共通認識を図るとともに、万が一発生したことを想定した校内連絡体制を精選し構築した。
⑩ 職場のハラスメント パワハラ、セクハラ、マタハラ等の防止	職場でパワハラ、セクハラ、マタハラ等のハラスメントが起こさないよう防止する。	A (良好) 職員啓発資料等をもとに、不祥事防止研修を実施し、所属教職員全員が順番に講師を務め自分事として理解を深められた。

○ 令和5年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和6年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

令和5年度の本校の達成状況は、特に重大な事故不祥事もなく良好であったと考えている。本年度は県内公立学校において、複数の重篤なわいせつ事案が起こり、職員会議等を通じて全職員が順次講師となり自分事と捉え研修等を行い、不祥事ゼロに向けた指導を徹底させた。職員主体による不祥事防止研修等により情報共有及び知識理解を深め、管理職共々風通しのよい職場環境を目指している。次年度はこれらをより一層推進できるよう、日常の指導助言を通じて当事者意識を高めさせていきたい。